

平成 30 年度 春期 システム監査技術者試験 解答例

午後 I 試験

問 1

出題趣旨	
<p>ビジネスを取り巻く環境の変化が激しくなっている状況において、システム開発プロジェクトの投資対効果をより詳細に管理し判断しようとする企業が増えてきている。しかし、投資対効果を管理し判断する制度を構築しても、効果的に運用できなければ、投資対効果を適切に検証できず、プロジェクトの継続可否を判断することに活用できない。</p> <p>本問では、“ステージゲート”の制度を題材として、システムの投資対効果を判断し、経営判断に生かすための真に役立つ制度であるかを見極めるために、システム監査人として、適切な視点から監査手続を設定し、実行する能力があるかどうかを問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	システムを利用し業務を遂行する主管部署がシステムオーナーとなっているかどうか	
設問 2	(i) ユーザ部門の教育費用	
	(ii) ゲートシステムの登録内容を閲覧し、費用項目の網羅性及び入力必須設定を確認した。	
設問 3	投資委員会によるゲートでの審査に明確な判断基準があること	
設問 4	プロジェクトの特性に応じて投資対効果を測定する時期が定められていること	
設問 5	プロジェクトに利害がある者が審査に関わっていないこと	

問 2

出題趣旨	
<p>業務遂行の結果として生成される各種の業務データを、収集、分析し、ビジネスに有効活用することで、業務効率の向上や、働き方改革に資する取組みが、企業活動において重要になっている。そのためには、業務データを収集・蓄積するデータ分析システムを利用することが効果的である。データ分析システムの構築には、幅広いデータを収集・蓄積して、それを分析することによって、何らかの知見を得ようとするアプローチと、分析の目的を明確にした上で、そのために必要な範囲のデータを収集するアプローチが考えられる。</p> <p>本問では、この二つのアプローチの特徴（長所・短所）を理解した上で、システム監査人として、データ分析システムの利用に伴うリスクとコントロールを踏まえて、監査手続を設定できる能力があるかどうかを問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点	備考
設問 1	本番運用サーバの負荷が増大し、スケジュール管理システムのレスポンスが低下する。	
設問 2	サンプルデータについては、個人情報に該当するデータ項目はマスキング処理を行う。	
設問 3	サービスレベルが高すぎるために、運用コストが高くなる。	
設問 4	活用検討会の議事録を入手して、データ分析の目的が明確に説明されていることを確認する。	
設問 5	“会議開催実績表”を閲覧して、1人当たりの会議時間の減少を確かめる。	

問3

出題趣旨	
<p>アプリケーション・システムの更新は、少なからず情報システムリスクの変化を伴う。リスクレベルが下がる領域がある一方で、新たなリスクが発生することもある。大規模なシステム改修や再構築の場合は、プロジェクトの規模が大きくなり、情報システムリスクやコントロールが再検討され、システム監査の対象となることも多いが、比較的小規模な機能追加や変更などの改修の場合は、見過ごされがちである。</p> <p>本問では、比較的小規模な改修であっても生ずる可能性のある情報システムリスクを見極め、適切なコントロールが設定されているかどうかを監査できる知識と能力を問う。</p>	

設問	解答例・解答の要点		備考
設問1	a	販売管理システムによる EDI 受注内容のチェック	
設問2	(1)	b EDI 取引契約書	順不同
		c 要件定義書	
設問3	(2)	d 受発注成立の条件の全てが受注データのチェック要件として定義されていること	
		e 1 件当たり 10 万円以上の受注を 10 万円未満の受注に分割して入力する	
設問4	g	f 定期的に 10 万円未満の受注の一覧表を出力し、受注責任者がチェックする	
		出荷指示リストと出荷完了リストとの突合が行われるようになっていることを確認すること	